

# 国 際 政 治

217

## 国際関係への文化的アプローチ

日本国際政治学会編

|                                                  |         |
|--------------------------------------------------|---------|
| 序論 国際関係への文化的アプローチ                                | 川 村 陶 子 |
| 戦間期日本における対外文化政策の「分岐」                             | 金 子 聖 仁 |
| 脱植民地政策におけるパブリック・ディプロマシーの役割                       | 尾 立 要 子 |
| アメリカによるデジタル産業の自由化と統制                             | 松 本 明日香 |
| 「正しいイスラーム」を主導するヨルダンの難民受入戦略                       | 佐 藤 麻理絵 |
| 欧州移民ガバナンスにおける文化的多様性                              | 正 躰 朝 香 |
| 在日大韓基督教会の反民族差別運動                                 | 加 藤 恵 美 |
| 一九八〇年代初期における「ユネスコの危機」と日本                         | 齋 川 貴 嗣 |
| <hr/>                                            |         |
| 一九七二年グロムイコ訪日と佐藤栄作政権                              | 横 山 雄 大 |
| カーター政権初期のSALTⅡ交渉と大統領＝議会関係                        | 瀬 川 高 央 |
| <hr/>                                            |         |
| <書評論文>                                           |         |
| グローバル・タックス研究の諸相                                  | 津 田 久美子 |
| 複雑化する日中関係のなかの日中戦争史研究                             | 劉 傑     |
| 歴史としての「冷戦の終わり」                                   | 志 田 淳二郎 |
| <hr/>                                            |         |
| <書 評>                                            |         |
| 五十嵐元道著<br>『戦争とデータ——死者はいかに数値となったか』                | 西 海 洋 志 |
| 山本敬洋著<br>『縁取られる日本：帝国主義・離島島民・人の移動、<br>一八五五—一八八四年』 | 澤 井 勇 海 |
| S・ジャイシャンカル著<br>『インド流——変動する世界への戦略』                | 溜 和 敏   |

2025年10月刊